

(様式第1号)

令和5年度 第4回芦屋市社会教育委員の会議 会議録

日 時	令和6年3月21日(木) 午後4時00分～5時30分
場 所	芦屋市役所東館3階中会議室
出席者	委員 今西 幸蔵 委員 井原 一久 委員 杉山 はるみ 委員 加藤 由香 委員 井岡 祥一 委員 池内 清
欠席者	委員 押谷 由夫 委員 小林 貴子
事務局	社会教育室長 田嶋 修 生涯学習課係長 石田 直也 生涯学習課管理係 岸田 珠来
会議の公表	<input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input checked="" type="checkbox"/> 公開 会議に諮り、出席者6人中6人の賛成多数により決定した。

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

- ア 令和5年度近畿地区社会教育研究大会(滋賀大会)について(報告)
- イ 令和5年度阪神南地区社会教育委員協議会研修会について(報告)
- ウ 令和5年度兵庫県社会教育研究大会について(報告)
- エ 社会教育室所管部署の市長部局への移管について
- オ その他

2 提出資料

- (1) 【資料1】令和5年度近畿地区社会教育研究大会(滋賀大会)
- (2) 【資料2】令和5年度阪神南地区社会教育委員協議会研修会
- (3) 【資料3】令和5年度兵庫県社会教育研究大会

3 審議内容

〈今西議長〉

それでは、議題1について事務局から説明をお願いします。

〈事務局：石田〉

【事務局から説明】

〈今西議長〉

ありがとうございました。

出席されておられた委員の皆様にご感想等をお伺いしたいと思います。

〈池内委員〉

地域の方々の担い手がないことが最も大きな課題だと感じました。昔から、少年団等の活動をしていても人数が減り中心となる方が高齢化していきます。どのように若者に参加いただくかが課題です。芦屋市におきましても、形がかわっても同じような課題があります。強制参加ではなく、若者に興味を持って参加していただき次回につなげていくことが必要だと感じました。

〈杉山委員〉

これまでの歴史で社会教育の形というものがありますが、若者の仕事のやり方が変わってきているため、以前と違う取り組みをする必要があります。例えば、催しの開催場所や内容を変えていく必要があると意見がありました。

また、若者はインターネットから情報を得ることが多いと感じるため、上手く IT やクラウドファンディングを使用するよう視点を変えることが良いと感じました。

〈今西議長〉

ありがとうございました。視点を変えていくことは大切です。

グループで野外プログラムを行う自然学校の話がありました。一般財団法人野外活動協会事務局長の日野様に発表いただき、ユースセンターの役割がかなり強調されたお話で面白かったです。特に、尼崎市立ユース交流センターの話が大変参考になりました。また、討議の中で淡路島の方の発表がありました。大変、的を得たお話で良かったと感じました。

こちらの報告について、ご質問等ございますか。

それでは、次に、議題 2「令和 5 年度阪神南地区社会教育委員協議会研修会について」事務局から説明をお願いします。

〈事務局：石田〉

**【事務局から説明】**

〈今西議長〉

ありがとうございました。

ご出席された委員の皆様は、感想等のお言葉をいただければと思います。

〈杉山委員〉

公民館で行っている講演会でも阪神間モダニズムについて伺ってことがあり、興味を持っているテーマです。芦屋市は阪神間モダニズムの典型的で中心となる街だと感じています。先生のお話もわかりやすく良かったです。

〈加藤委員〉

三宅教授の阪神間モダニズムのお話は2回目ですが、大変興味深い内容でした。今回は、尼崎市、西宮市、芦屋市の3市のつながりを詳しく教えていただき面白かったです。

〈池内委員〉

芦屋市立美術博物館は、阪神間モダニズムが中心となっているような感じがします。講演を聞いて、尼崎市、西宮市、芦屋市の3市が連携して阪神間モダニズムを進めていることに興味を持ちました。芦屋市立美術博物館は展示物が新しくなっても、市民の参加が少なく感じています。皆様に美術博物館の意義をわかっていただき活用していただきたいです。

〈今西議長〉

ありがとうございました。

何かご質問等ございますか。

アンケートの結果について、時間配分に少し不満があるような感じがしましたが、何かございましたか。

〈石田係長〉

研修会は第1部の講演会と第2部の施設見学でそれぞれ1時間ずつ設定しました。第2部の施設見学では1箇所を25分程度で巡っていただき、講義室に集まってから解散したため、施設の成り立ち等の説明が少し物足りなかったというご意見だったと感じています。

〈今西議長〉

わかりました。原因がわかっているのであれば結構です。また次回に活かしていただきたいと思います。

他にご意見はございませんでしょうか。

〈加藤委員〉

西宮市の社会教育委員の方が少ないように感じます。何か原因がございませうか。

〈石田係長〉

具体的な原因は把握していませんが、他市での開催で場所が遠いこともあり、足が遠のいてしまったのではと感じています。

〈今西議長〉

以前より、阪神間モダニズムは芦屋市を中心に注目されています。参加できなかったことは残念で申し訳なく思っています。新型コロナウイルスの前は、研修会の後に交流会がございました。無理のない範囲で再開を検討していただきたいです。

それでは、次に、議題3「令和5年度兵庫県社会教育研究大会について」事務局から説明をお願いします。

〈事務局：岸田〉

【事務局から説明】

〈今西議長〉

ありがとうございました。

こちらの研究大会に私も出席しましたので、少し時間をいただき報告させていただきます。大きなテーマとして2つあり、1つはサードプレイス論という問題提起です。十数年前よりアメリカのレイ・オルデンバーグがサードプレイス論を出しています。サードプレイス論では、家庭と職場以外の第3の場ですが、ご講演いただいた特定非営利活動法人こうべユースネット理事長の辻 幸志様は家庭と学校以外の第3の場をつくることに取り組んでおられます。もう1つのテーマは居場所の問題です。近年、経済格差が広がり食べ物がいない子どもがいるようです。福祉に関するこども食堂に社会教育が協力して全国的に実施しています。他にヤングケアラーやネグレクトが問題となっているため居場所運動がありました。こちらは、慶應義塾大学を卒業した今村 久美様が始めた運動で全国的に広がっています。辻 幸志様はこの居場所づくりに近いことをやっておられます。子どもたちにとって、生きる力、生き抜く力というレジリエンスや社会性を身に着けると話がありました。また、大学生の実行委員が企画運営して外国人の児童生徒と神戸市内の生徒の交流があります。おもしろいと思ったことは、神戸市の兵庫区に固定的な場所があり実験的に実施していることです。

次に、第1分科会で地域学校協働活動について、太子町社会教育指導員の嘉納 誉人様にご講演いただきました。太子町では、人口が約3万3千人で4小学校と2中学校あります。地域学校協働活動推進委員は4名、学校支援ボランティアは48名いらっしゃいます。また、町役場の中にボランティアセンターがあり、商工会がライオンズクラブと連携していると聞きました。関西の状況を調査していますが、おそらく一番整理されています。見方を変えると人口が少ない太子町だからできることだと思います。一方、少ないからこそ難しい面もあると思います。その中で良くされていると感じました。

〈井原委員〉

先ほど、事務局よりコミュニティ・スクールの発表が良いと話がありましたが、今西議長がおっしゃっている学校運営協議会の発表も良いと思います。尼崎市にあるNPO法人アスロンでも様々な場所で地域学校協働活動をやっていきたくと話が上がっています。今年、NPO法人アスロンでは、「エプロン先生導入事業」をしています。給食の支援や教室に行くまでのガイドのボランティアに入っていて、先生の助けになっています。低学年に対しても学校を元にボランティアを募るのが良いのではないのでしょうか。芦屋市は、コミュニティがしっかりしている地盤があるので、学校運営協議会を進めていくと良いと思います。

〈今西議長〉

地域学校協働本部を創っていくには、ボランティアが非常に大切です。他市を見ている母体となる方ははっきりとしません。学校支援地域本部事業がうまくいっていなかったことで、今までボランティアをされてきた方をまとめる軸ができませんでした。太子町では48名のボランティアを登録してコーディネーターを中心に活動されおり、非常に上手な仕組みができています。国が描いているイメージは自治会や総合型地域スポーツクラブ、青年団を集めることです。こちらは、北九州方式という北九州と福岡市とさいたま市が提案した形です。とても難しい問題ですが、少しずつ研究しながら前へ進めていく必要があると考えています。

〈井岡委員〉

浜風小学校で学校地域本部事業が立ち上がっていましたが、活動が減少してきました。代表の方に話を伺うと、高齢化となり人が集まらなくなったとのことです。そこで、ボランティアの育成方法を話し合い、浜風小学校でもPTAのボランティアを立ち上げるまでの話になりました。PTAを卒業された後に地域で活躍されることになり、子どもたちも卒業されたあとも地域でできることを探して地域の中で活動してほしいという想いです。その基盤を学校で作っていただくことが大切だと思いました。社会教育委員の立場として、これから積極的にボランティアに参加していただき小学校を卒業しても地域で活動いただくことで若い世代も繋がれると思っています。

〈今西議長〉

神戸学院大学での最後の報告書で「社会教育の指導者をどう育てるのか」について、全国にインタビュー調査をしました。その結論が、街のリーダーを育てるのはPTAだという結論になりました。今の井岡委員のお話から調査結果につながったと感じ嬉しく思いました。PTAが地域を一番よく知っています。また、ボランティアを養成する講座について、公民館講座でもいいので、実際にやっている方のノウハウを聞くボランティア学習をしてほしいです。PTAを中心にボランティア団体を創っていくことが、地域学校協働本部の根底となる人材になると考えます。

〈井原委員〉

市長部局に移管した時の社会教育の一番の仕事は、地域主体のボランティアを育てることだと感じます。いかに学校と地域をつなぐかが大切なこととなります。芦屋市はヨドコウ迎賓館のように歴史がありますが、私たちソーシャルキャピタルは地域や子供たちのために踏襲していくことだと考えると、今西議長や井岡委員がおっしゃっていることが課題だと考えます。もし良ければ、次回の議題や発表に盛り込んでいただければと思います。

〈今西議長〉

来年度の、議題の中に検討事項としていただければと思います。

他いかがでしょうか。

以前、芦屋市独自のコミュニティ・スクールについて詳しく伺うことがあり、上手くできていると思えました。地域の一番の核となると感じています。よろしく願いいたします。

それでは、それでは、次に、議題4「社会教育室所管部署の市長部局への移管について」事務局から説明をお願いします。

〈事務局：田嶋〉

【事務局から説明】

〈今西議長〉

ありがとうございました。

今の説明については、質問等ございませんでしょうか。

〈井原委員〉

コミュニティ・スクールの所管は、教育委員会ですか。

〈事務局：田嶋〉

はい。そうです。

また、学校評議員制度から学校運営協議会に変わっていく時期でもありますので、来年度はより力を入れていきたいと考えています。次回の社会教育委員の会議でも皆様からも意見をお伺いし反映できるように努めます。

少子高齢化は否めませんが、芦屋市はコミュニティ・スクールがあり他市にない強みであるので、学校運営協議会にうまく連携していけるかが重要であり課題であると感じます。また、芦屋市には6校の学校にボランティア団体があるので、他の学校もボランティア団体を設置して学校運営協議会とコミュニティ・スクールを繋げ委員の皆様にご意見をいただきながら進めていきたいです。

〈井原委員〉

部活動の地域移行が進んでおり、今年はNPO法人アスロンで園田学園女子大学と連携し部活動の指導者講習をさせていただきました。人・もの・金・情報が資源としてあります。人は人材が足りていません。ものは学校や施設になります。施設に関して、広く提言していただければと思います。

〈今西議長〉

部活動の地域移行に関する委員会は設置していますか。

〈事務局：田嶋〉

はい。今年度は地域移行に関する検討会議でしたが、来年度は実施した事業の検証会議を

新しく設置します。

〈今西議長〉

子どもに直接関係することになります。よろしく願いいたします。

他ございませんか。

それでは、次に、議題5「その他」について事務局から説明をお願いします。

〈事務局：石田〉

**【事務局から説明】**

〈今西議長〉

ありがとうございました。

ご意見等ございませんでしょうか。

これで本日の議題は終了いたしました。ご協力いただきありがとうございました。